

<p>(E)個人別の受診(記録)台帳またはデータベースを作成しているか</p>	<p>【はい】</p>	<p>①上記の網羅的な対象者名簿に、個人毎に、検診受診の有無・検診結果・精検結果を記入している場合(紙台帳でもパソコン台帳でも可)。また、対象者名簿が無く、受診者のみを記録する受診者台帳を作成している市区町村においても、個人毎にこれらの項目が記入されている場合。</p> <p>②委託先検診機関等が受診者台帳を作成している市区町村においては、委託先全ての受診者台帳について、個人毎の検診受診の有無・検診結果・精検結果の記録様式になっていることを確認している場合。</p> <p>※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す</p> <p>③④以外の場合</p>	
<p>(F)受診者数を ○性別・年齢階級別 ○検診機関別 ○検診受診歴別に 集計しているか</p>	<p>【はい】</p>	<p>①受診者数を、上記の受診者台帳を基に集計している場合</p> <p>②外部機関(委託先検診機関)が受診者数を集計している市区町村においては、全ての機関において、上記の受診者台帳を基に集計されている場合。</p> <p>※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す</p> <p>③④以外の場合。個人別の受診歴台帳に基づいた集計以外は不適切。また、問診(受診者の申告)での受診歴把握も不適切。</p>	
<p>(G)過去3年間の受診歴を記録しているか</p>	<p>【はい】</p>	<p>①市区町村において、個人毎の過去3年間の受診情報が把握できる場合。(当該年度に初めて受診した者については除く)</p> <p>②外部機関(委託先検診機関等)が把握している市区町村においては、全ての機関で個人毎の3年間の受診情報が把握でき、かつその情報提供を要している場合。</p> <p>※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す</p> <p>③④以外の場合。1~2年分の受診歴のみの場合は不適切。また、問診(受診者の申告)での受診歴把握も不適切。</p>	

チェックリスト項目	【いいえ】	2. 2 択回答基準	解説
(H) ○要精検率 ○精検受診率 ○発見率 ○早期がん割合 ○陽性反応適中度を把握しているか	【いいえ】	各項目の「総数」だけでなく「年」を、以下の①②のいずれかにより把握している場合。 ①市区町村においてこれらを把握している場合。 ②外部機関（委託先検診機関・生活習慣病管理指導協議会等）がこれらを把握している市区町村においては、そのデータの提供を受けている場合。 委託先検診機関が複数ある場合は、全ての検診機関からデータ提供を行う。市区町村としての要精検率/精検受診率/発見率/早期がん割合/陽性反応適中度を把握できていることが必須。 ※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す	【早期がん】 チェックリスト本文の注釈参照 【陽性反応適中度】 検診結果が要精検者の者のうち、がんが発見された者の割合。 「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方」について報告書(厚労省4)P30～参照
【いいえ】	【いいえ】	委託先検診機関が複数ある場合は、全ての検診機関からデータ提供を行う。市区町村としての要精検率/精検受診率/発見率/早期がん割合/陽性反応適中度を把握できていることが必須。 ※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す	
(I) ○要精検率 ○精検受診率 ○発見率 ○早期がん割合 ○微小腫瘍がん割合（子宮がん） ○陽性反応適中度を把握しているか	【いいえ】	①市区町村においてこれらを集計している場合。 ②外部機関（委託先検診機関・県の生活習慣病管理指導協議会）がこれらを集計している市区町村においては、そのデータの提供を受けている場合。 委託先検診機関が複数ある場合は、全ての検診機関からデータ提供を行う。市区町村としての要精検率/精検受診率/発見率/早期がん割合/陽性反応適中度（性・年齢層別・検診機関別）を把握できていることが必須。 ※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す	
○性別・年齢層別（5歳階級別） ○検診機関別に集計しているか	【いいえ】	①②以外の場合。年齢区分が5歳階級別以外は不適切。 ①市区町村において個人毎の受診歴を把握し、これらを集計している場合。	
(J) ○要精検率 ○精検受診率 ○発見率 ○早期がん割合 ○微小腫瘍がん割合（子宮がん） ○陽性反応適中度を把握しているか	【いいえ】	①外部機関（委託先検診機関等）が集計している市区町村においては、全ての機関で個人毎の受診歴を把握してこれらを集計しており、かつそのデータの提供を受けている場合。 委託先検診機関が複数ある場合は、全ての検診機関からデータ提供を行う。市区町村としての要精検率/精検受診率/発見率/早期がん割合/陽性反応適中度（検診受診歴別）を把握できていることが必須。 ※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合、この委託検診機関とは医師会を指す	【受診歴別】 初回受診者及び5歳年受診者別集計すること。 【初回受診者の定義】 ・過去3年間ご受診歴がない者 ・胃・大腸・乳・子宮 ・前回は受診歴がない者（新）

チェックリスト項目		2 択回答基準	解説
(K-1)〇粘膜炎がんを区別しているか(胃/大腸) (K-2)〇非漿液がんを区別しているか(乳がん)	【はい】		【粘膜炎がん】がんの種類が粘膜炎にとどまるもの 【非漿液がん】がんが乳管や小葉の中にとどまるもの
	【いいえ】		
(L)精検未受診率を把握しているか	【はい】	<p>①市区町村が、(ⅰ)「今後の我が国におけるがん検診重要評価の在り方について 報告書（H20年9月）P.38」に記載された「精検受診」「未受診」「未把握」の定義に従って、未受診者を把握し、(ⅱ)さらに未受診率を算計している場合。両条件が必須。</p> <p>②外部機関が未受診率を算計している市区町村においては、全ての機関で①(ⅰ)の定義により未受診者を把握し、かつその情報提供を受けている場合。</p> <p>委託先検診機関が複数ある場合は、全ての検診機関からデータ提供を行う。市区町村としての精検未受診率を把握できていることが必須。</p> <p>※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合は、この委託検診機関とは医師会を指す</p>	<p>【精神受診】 精検機関/検診機関/受診者からの報告、あるいは精神 機関/検診機関/受診者への問い合わせにより、 精検日・受診機関・精検方法・精神器具が判明した場 合。受診していたとしても、④項目が判明しない場合は未 把握。</p> <p>【精神未受診】 精検機関/検診機関/受診者からの報告、あるいは精神 機関/検診機関/受診者への問い合わせにより、精神を 受診しなかったことが判明している場合、及び不備切な 精検方法(同報告書p38参照)が実施された場合。</p> <p>【精神未把握】 精検受診と精神未受診に該当しない場合。</p>
	【いいえ】	<p>③④以外の場合。特に、直接受診者数と精検未受診者数は調査の調査にはないので要注意。</p>	
(M)精検未受診率に精検の受診 動向を行っているか	【はい】	<p>①精検未受診者個人を全員特定し、個人宛に動向している場合</p> <p>②委託先検診機関等が精検未受診者への動向を実施している市区町村においては、全ての機関において、未受診者全員へ動向している場合。</p> <p>※医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合は、この委託検診機関とは医師会を指す</p>	
	【いいえ】	<p>③④以外の場合。特に、精検未受診者個人宛の動向ではなく、広報やチラシ等による周知のみの場合は不通過。</p>	

チェックリスト項目	2. 採回答基準	解説
<p>(N) 精密検査結果及び治療の結果報告を精密検査実施機関から受けているか</p> <p>【はい】</p>	<p>精検受診者全員の結果を回収するためのシステム<sup>(註)</sup>が確立している<sup>(注)</sup>場合。</p> <p><sup>(註)</sup> 精検日・受診機関・精検/治療結果の収集方法、これらの結果が届かない場合の確認方法を指す。</p> <p><sup>(注)</sup> 精検結果の未把握率が9%以下であること。(がん検診事業評価委員会報告書別添資料・事業評価指標詳細一覽より)。また、この場合の未把握率は、同報告書P88の定義によるもの)</p> <p>回収方法例1) 精検機関から直接市区町村へ報告</p> <p>回収方法例2) 検診機関が精検/治療結果について取りまとめ、市区町村に報告</p> <p>回収方法例3) 精検機関以外(医師会)からの報告、または、医師会への問い合わせ</p> <p>上記以外の場合</p>	<p>• 事方公共団体等への精密検査の結果の精検提供は、「個人情報」の保護(平成15年)において、「公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であつて、本人の同意を得ることが困難であるとき」に該当している(医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドライン(平成15年12月))</p> <p>※ 個人情報を理由に「精検結果・治療の結果」を把握することはできない(統計データのみの把握も不備である)。</p>
<p>(O) 過去3年間の精密検査結果を記録しているか</p> <p>【はい】</p>	<p>① 市区町村において、受診者台帳より個人毎の過去3年間の精検結果が把握できる場合。</p> <p>② 外部機関(委託先検診機関等)が把握している市区町村においては、全ての機関で個人毎の過去3年間の精検結果が受診者台帳より把握でき、かつその情報提供を受けている場合。</p> <p>※ 医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合は、この委託検診機関とは医師会を指す</p> <p>①②以外の場合、1～2年分の精検結果のみの場合には不適切。</p>	
<p>(P) 精密検査の検査方法を把握しているか</p> <p>【はい】</p>	<p>精検を受診した全員についての精検方法を個人毎に把握する体制が確立しており<sup>(注)</sup>、台帳に記録している場合。</p> <p><sup>(注)</sup> 精検方法の未把握率が5%以下であること。(がん検診事業評価委員会報告書別添資料・事業評価指標詳細一覽より)。また、この場合の未把握率は、同報告書P88の定義によるもの)</p> <p>把握方法例1) 精検機関から直接市区町村へ報告。</p> <p>把握方法例2) 検診機関が精検方法を取りまとめ、市区町村へ報告</p> <p>把握方法例3) 精検機関以外(医師会、受診者等)からの報告。または医師会や受診者への問い合わせ。</p> <p>上記以外の場合</p>	

チェックリスト項目	【はい】	2. 択回答基準	解説
(Q) がん検診の集計の最終報告を都道府県に行なっているか。	【はい】	地域保健・健康増進事業報告の記入要領に従って、表の全ての項目について計上でできる場合。厚生労働省に直接報告する指定都市・中核市についても同様。	
(R) 委託検診機関の運用に際し、任借書を作成・提出させてそれを委に判断しているか	【はい】	<p>上記以外の場合</p> <p>① 全ての委託検診機関との間で(1)任借書が契約前に作成されており、(2)任借書に精度管理項目の記載があり、(3)その精度管理項目の内容を運用基準としている、の3条件を満たしている場合。任借書の作成は市区町村でも可であり、各校検診機関はその施設の実情を記入することで任借書を完成させること。</p> <p>② 全ての委託検診機関に、県/市の指導要領等を契約前に渡すことで任借書の代わりとしている市区町村においては、その指導要領等に精度管理項目の記載がある場合。</p> <p>③ 県(生活習慣病管理指導協議会等)と委託契約している検診機関を利用している市区町村においては、契約途中の精度管理項目を把握している場合。</p> <p>④ 検診機関が一箇所しかなく、運定の必要がないという市区町村においても①～③のいずれかを満たしている場合。</p> <p>※ 医師会に検診を委託し、医師会が個々の医療機関に検査の実施を委託する場合は、この委託検診機関とは医師会を指す</p> <p>①～④以外の場合。過去一回だけ(検診機関との契約時)に任借書を取り交わしたが、その後内容の点検/更新を実施していない場合は不適用なので要注意。</p>	<p>【任借書とは】 市区町村が民間事業者にかん検診を委託する際には、原則として一発買手入札による契約を行なう。</p> <p>入札の際には、委託基準等を明確に示す必要があり、これを示す文書を「任借書」と呼ぶ。この「任借書」には、設備、人員、運営等の精度管理基準等を盛り込むことが重要である。</p> <p>委託元の市区町村と委託先となる検診実施機関との間には、委託契約の原簿には任借書を作成し検診の要領内容(設備・人員・運営基準等)を確認するべきである。</p>

チェックリスト項目	2択回答基準	解説
<p>【はい】</p> <p>大腸がん</p> <p>胃がん</p> <p>全がん共通</p> <p>(S)仕様に必須の精度管理項目を明記させているか</p>	<p>「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について報告書（平成20年3月）」に記載された「仕様に明記すべき必要最低限の精度管理項目」の全項目<sup>(注)</sup>が含まれている場合。</p> <p><sup>(注)</sup>ただし以下の項目の解釈については下記参照。</p> <p><input type="checkbox"/> 【検体受領後原則として24時間以内に測定する】</p> <p>→ 難くないしは遠隔地では24時間をすぎてもかまわない。</p> <p><input type="checkbox"/> 【撮影機器の種類を明らかにする。原則として間接撮影で10日×10cm以上のフィルムでI.I.方式とする】 【透視の利用に当たってはその進展を適切に（中略）保つとともに、副作用の事故に注意する】</p> <p>→ レントゲンの撮影機器の種類、撮影体位、撮影方法、枚数については日本消化器がん検診学会の方式（変法も含む）によるものとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 【問診記録・検診結果は少なくとも5年間は保存する】</p> <p>→ この調査においては、3年間の保存でもよい。（ただし5年保存が望ましい）</p> <p><input type="checkbox"/> 【要精密検査となった場合には、必ず精密検査をうける必要があることを事前に明確に知らせる】 【精密検査の方法や内容について説明する】</p> <p>→ 検診受診者全員に対する説明は、口頭・説明会・リーフレット等でもよい。ただし、要精密検査となった受診者に対しては、精密検査の方法、内容について個別に説明する。</p>	
【いいえ】	上記以外の場合	

図3 数値目標の設定方法

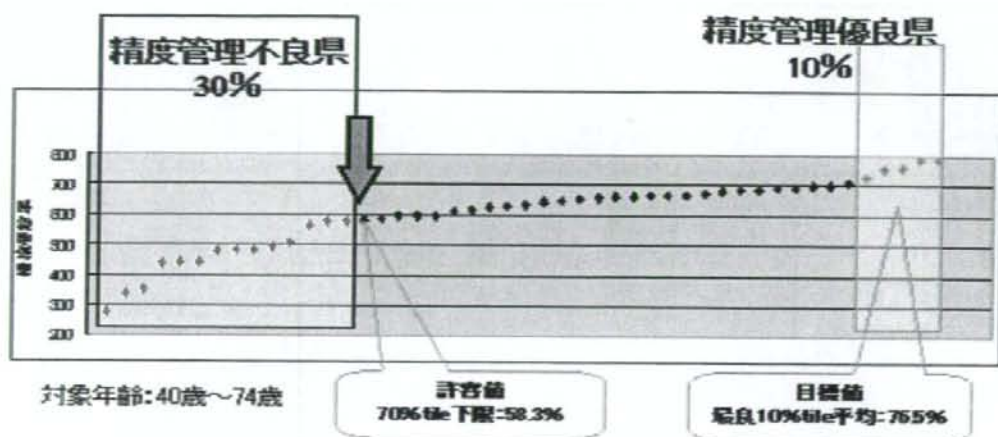


表3 数値目標（許容値・目標値）

	許容値					目標値 全がん
	乳がん	子宮がん	大腸がん	胃がん	肺がん	
精検受診率	80.8%	84.2%	58.3%	72.91%	71.9%	90%以上
	70%以上					
未把握率	8.5%	20.7%	19.8%	11.55%	12.9%	5%以下
	10%以下					
未受診率	12.3%	18.4%	30.5%	17.23%	15.2%	5%以下
	20%以下					
未受診率・未把握率	19.4%	35.8%	41.7%	28.12%	28.1%	10%以下
	30%以下					
要精検率	11.0%以下	1.4%以下	7.0%以下	11.0%以下	3.0%以下	
がん発見率	0.23%以上	0.05%以上	0.13%以上	0.11%以上	0.03%以上	
陽性反応の 中度	2.4%以上	4.4%以上	1.9%以上	1.0%以上	1.3%以上	

図4 集計時期別指標値 (5月老健報告 vs 検診機関最終集計)

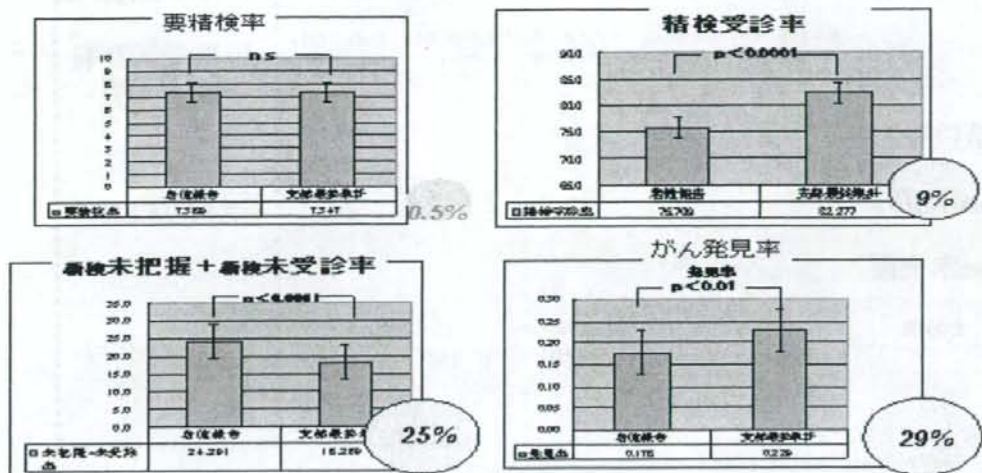


表4 がん検診事業報告様式の改定案

年時階級	検診回数	対象者数	要検者数	要精検者数	要精検者 / 精検受診の有無別人数				検診中/精検後による偶発症		精検中/精検後による偶発症			
					精検受診あり				未受診	未把握	重篤な偶発症	偶発症による死亡	重篤な偶発症	偶発症による死亡
					精検結果別人数									
					異常なし	がんがあった音	がんの無い音	がん以外の脱癌であった音	合計	重篤な偶発症	偶発症による死亡	重篤な偶発症	偶発症による死亡	
何... 44	初回													
	非初回													
	合計													



表5 検診現場での精検受診・未受診・未把握の分類の実態調査結果

要精検者54,837例

	i 精検機関からの 結果報告あり	ii 受診者が精 検の結果を 申告	iii 受診者が精 検を受診申 するも詳細不 明	iv 受診者が精 検を受診申 す	v 精検として不適 切な検査執行	vi 精検受診の有 無が不明
精検受診	38277 [70%]	444 [1%]	97	0	283 [0.5%]	0
精検未受診	0	0	0	5,755 [3.7%]	204 [0.4%]	2,842(5.2%)
精検未把握	0	524 [1%]	48 [0.1%]	0	0	2,285(4.2%)
その他	1,200 [2%]	70	100 [0.2%]	318 [0.5%]	34	2,764(5.0%)
計(合計54,837)	39,477	1,038	245	5,457	527	7,901

※ グレー網掛け: 正しい精検受診・未受診・未把握の定義 n=人数 (当該施設/報告施設の数)

斜め字: 誤分類

誤分類総計 8,232(54,837) 約15%

表6 精検受診・未受診・未把握の新定義

精検受診	精検機関より精検結果の報告があったもの。 もしくは、受診者が詳細(受診機関・精検法・精検結果の3つ全て)申告したもの。
未受診	要精検者が精検機関に行かなかったことが判明しているもの。 (受診者本人の申告及び精検機関で受診の事実が確認されないもの)及び精検として不適切な検査が行なわれたもの。 <sup>注)</sup> 注) 精検として不適切な検査とは以下の2つである。 ・大腸がん検診における便潜血検査の再検 ・肺がん検診における喀痰細胞診要精検者に対する喀痰細胞診の再検
未把握	精検受診の有無が分からないもの。 及び(精検受診したとしても)精検結果が正確に分からないもの全て。 (すなわち、上記の精検受診、未受診以外のもの全て)

図5 都道府県・市町村の評価  
大腸がん検診（H18年度老人保健事業報告データより）

2008年度老人保健事業報告データより(千葉県老人会)

都道府県	精検受診率		未把握率		未受診率		未把握+未受診率		要精検率	がん発見率		PPV
	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数		率	人数	
12 千葉県	55.374	20,611	23.299	53,063	7.165	1,168	30.134	74,226	0.168	2,341	1.50	
千葉県	46.937	29,764	23.299	53,063	6.146	905	29.445	72,118	0.095	1,547	1.70	
市	77.072	0,000	22.928	22,928	3.745	52	26.673	23,480	0.132	3,527	1.85	

千葉県 (55.374%)

許容範囲 ↓

目標範囲 ↓

精度管理優良県 ↑

許容範囲内(千葉県)は事業評価委員会による評価項目・事業評価指標値(注-1)より  
目標範囲内(市)より

千葉県

大腸がん							
	精検受診率	未把握率	未受診率	未把握+未受診率	要精検率	がん発見率	PPV
全国	55.374	20.611	24.015	44.626	7.165	0.168	2.341
千葉県	46.937	29.764	23.299	53.063	6.146	0.095	1.547
市	77.072	0.000	22.928	22.928	3.745	0.132	3.527
千葉県の評価	×	×	×	×	許容値○	×	×
市の評価	許容値○	目標値○	×	許容値○	許容値○	許容値○	許容値○
大腸がん参考数値							
許容値	70%以上	10%以下	20%以下	30%以下	7%以下	0.13%以上	1.9%以上
目標値	90%以上	5%以下	5%以下	10%以下	-	-	-

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

研究代表者 齋藤 博

- 1) Hamashima C, Sobue T, Muramatsu Y, Saito H, Moriyama N, Kakizoe T. Comparison of Observed and Expected Numbers of Detected Cancer in the Research Center for Cancer Prevention and Screening Program. *Jpn J Clin Oncol*, 36 (5):301-308. 2006
- 2) Saito H. Colorectal cancer screening using immunochemical faecal occult blood testing in Japan. *J Med Screen*, 13 (Suppl 1): s6-s7. 2006
- 3) Otani T, Iwasaki I, Ikeda S, Kozu T, Saito H, Mutoh M, Wakabayashi K, Tsugane S. Serum triglycerides and colorectal adenoma: a case-control study among cancer screening examinees (Japan). *Cancer Causes Control*, 17: 1245-1252. 2006
- 4) 齋藤博, 便潜血検査と大腸がん, 総合臨床, 55: 3, 480-484, 2006
- 5) 齋藤博, 濱島ちさと, [癌検診のエビデンス] 大腸がん検診, *EBMジャーナル*, 8 (2): 42-49, 2007
- 6) Lambert R, Saito H, Saito Y. High-resolution endoscopy and early gastrointestinal cancer dawn in the East. *Endoscopy*, 39: 232-237. 2007
- 7) Saito H. Current status of colorectal cancer screening in Japan. *Acta Endoscopica*, 37: 181-188. 2007
- 8) Lambert R, Saito H, Saito Y. High-resolution endoscopy and early gastrointestinal cancer dawn in the East. *Endoscopy*, 39:232-237. 2007
- 9) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan. *Cancer Sci*. 98 (8):1241-1247. 2007
- 10) Shoda H, Kakugawa Y, Saito D, Kozu T, Terauchi T, Daisaki H, Hamashima T, Muramatsu Y, Moriyama N, and Saito H. Evaluation of F-2-deoxy-2-fluoro-glucose positron emission tomography for gastric cancer screening in asymptomatic individuals undergoing endoscopy. *Br J Cancer*, 97:1493-1498, 2007
- 11) Hamashima C, Saito H, Nakayama T, Nakayama T, Sobue T. The Standardized Development Method of the Japanese Guidelines for Cancer Screening. *Jpn J of Clin Oncol* 2008 (in press)
- 12) Hamashima C, Shibuya D, Yamazaki H, Inoue K, Fukao A, Saito H, Sobue T. The Japanese Guidelines for Gastric Cancer Screening. *Jpn J of Clin Oncol* 2008 (in press)
- 13) 齋藤 博, 濱島ちさと, 「癌検診のエビデンス」 大腸がん検診, *EBMジャーナル*, 2007, 8 (2): 42-49
- 14) 佐川元保, 中山富雄, 遠藤千顕, 濱島ちさと, 齋藤博, 祖父江友孝, 肺がん検診ガイドライン・エビデンスレポート・レビュー, *Minds医療情報サービス*, 2007
- 15) 中山富雄, 佐川元保, 遠藤千顕, 濱島ちさと, 齋藤 博, 祖父江友孝, *CPGレビュー: 胃がん検診ガイドライン 胃がん検診ガイドライン・レビュー*, *Minds医療情報サービス*, 2007
- 16) 佐川 元保, 中山富雄, 遠藤千顕, 濱島ちさと, 齋藤 博, 祖父江友孝, (平成18年度厚生労働省がん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班肺がん検診ガイドライン作成委員会): 有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン(普及版), *癌と 科学療法*, 34 (3): 481-501, 2007
- 17) Hamashima C, Shibuya D, Yamazaki H, Inoue K, Fukao A, Saito H, and Sobue T. The Japanese Guidelines for Gastric Cancer Screening. *Jpn J Clin Oncol*, 38 (4) 259-267. 2008
- 18) Hamashima C, Saito H, Nakayama T, Nakayama T and Sobue T. The Standardized Development Method of the Japanese Guidelines for Cancer Screening. *Jpn J Clin Oncol*, 38 (4) 288-295. 2008
- 19) Kudou S, Lambert R, Saito H. Nonpolypoid neoplastic lesions of the colorectal mucosa. *Gastrointestinal Endoscopy*. 68 (4): S3-S47. 2008
- 20) Uraoka T, Saito H, et al. Detectability of colorectal neoplastic lesions using narrow-band imaging system: A pilot study. *J Gastroenterol Hepatol*. 23:1810-1815. 2008
- 21) Uraoka T, Saito H, et al. Narrow-band imaging for improving colorectal adenoma detection: Appropriate system function settings are required. *Gut*. (in press)
- 22) 中山富雄, 佐川元保, 齋藤 博, 祖父江友孝, 濱島ちさと, 有効性評価に基づく前立腺がん検診ガイドライン, 厚生労働省, 2008
- 23) 齋藤博, 町井涼子, 青木綾子, 濱島ちさと, がん診断と治療: がん検診の現状と課題, *日本抗加齢医学会雑誌(アンチ・エイジング医学)*, 4 (3): 41-47, 2008

研究分担者 江口 研二

- 24) K. Eguchi, N Seki, Solitary nodular shadow I Diseases of the Chest Imaging Diagnosis Based on Pattern Classification, eds. Matsushima T, Kuwabara M, Eguchi K, pp. 81-100 Georg Thieme Verlag, Germany 2007
- 25) A. Ebihara, H Nomori, K Watanabe, T Ohtsuka, T Naruke, K Uno, I Kuwahira, K. Eguchi Characteristics of Advantages of Positron Emission Tomography over Computed Tomography for N-staging in Lung cancer Patients. Jpn J Clin Oncol 36 (11) 694-8, 2006
- 26) K. Eguchi, C. Henschke, Meeting Summary of the 12<sup>th</sup> International Conference on Screening for Lung Cancer: Nara, Japan, April 2005 J Thoracic Oncology 1:190-7, 2006
- 27) N. Tomiyama, Y. Yasuhara, Y. Nakajima, S. Adachi, Y. Arai, M. Kusumoto, K. Eguchi, K. Kuriyama, F. Sakai, M. Noguchi, K. Murata, 28) S. Murayama, T. Mochizuki, K. Mori, K. Yamada CT-guided needle biopsy of lung lesions: A survey of severe complication based on 9783 biopsies in Japan. Eur J Radiology 59:60-4, 2006
- 29) 五味志穂、花井耕造、村松禎久、中村義正、萩原芳広、山口功、松本久美子、長野優子、津田雪裕、江口研二、柿沼龍太郎、土屋了介、森山紀之、胸部CTスクリーナーアンケート調査結果報告胸部CT検診、13:181-4, 2006
- 30) 江口研二、低線量CTを用いた微小肺がんのスクリーニングがん分子標的治療、4: 63-7, 2006
- 31) 江口研二、肺癌検診、現状と今後、日本医事新報、4310:57-67, 2006
- 32) 柿沼龍太郎、江口研二、金子昌弘、土屋了介、低線量CTによる肺癌検診のガイドライン annual review、呼吸器2006、185-92、中外医学社、2006
- 研究分担者 池田 徳彦
- 33) 池田徳彦、林 和、岩崎賢太郎、臼田実男加藤治文、中心型早期肺癌の内視鏡治療、日本胸部臨床、65:S137-142, 2006
- 34) 池田徳彦、林 和、岩崎賢太郎、中心型早期肺癌の内視鏡所見、呼吸、25:691-695, 2006
- 35) 江口研二、池田徳彦、柿沼龍太郎、中山富雄、肺癌検診の現状と課題、呼吸、25:838-847, 2006
- 36) 池田徳彦、林 和、岩澤俊一郎、加藤治文、本多英俊、蛍光内視鏡検査、MOOK肺癌の臨床、145-149、篠原出版、2005-2006
- 37) Ohira T, Suga Y, Nagatsuka Y, Usuda J, Tsuboi M, Hirano T, Ikeda N, Kato H Early stage lung cancer: diagnosis and treatment Int J Clin Oncol:11:9-12, 2006
- 38) Ikeda N, Honda H, Hayashi A, Usuda J, Kato Y, Tsuboi M, Ohira T, Hirano T, Kato H, Serizawa H, Aoki Y Early detection of bronchial lesions using newly developed videoendoscopy-based autofluorescence bronchoscopy Lung cancer 52: 21-27, 2006
- 研究分担者 遠藤登喜子
- 39) Kano H, Endo T, et al, Evaluation of new image processing condition for digital mammograms from Fuji Computed Radiography, Nagoya Journal of Medical Science. 68-3:131-138, 2006
- 40) 古妻嘉一、遠藤登喜子、他、アンケート調査によるマンモグラフィ読影講習会の精度管理 (7)、日本乳癌検診学会誌、15-3:268-283, 2006
- 41) 遠藤登喜子、精中委マンモグラム・レビュー委員会の役割、新医療、33-12:104-107, 2006
- 42) Tohno E, Endo T, et al, Establishment of seminars to improve the diagnostic accuracy and effectiveness of breast ultrasound, J Med Ultrasonics, 33; 239-244, 2006
- 43) 遠藤登喜子、角田博子、わが国のデジタルマンモグラフィの動向 - デジタルマンモグラフィの普及と精度管理 -、乳癌の臨床、21-3:256-262, 2006
- 44) 丹羽多恵、遠藤登喜子、他、愛知県市町村乳がん検診担当者研修会を通じて見えてきたもの、日本乳癌検診学会誌、15-2:211-212, 2006
- 45) Ando M, Endo T, et al, Sharper Image of Breast Cancer Cells and Stroma in Dense breast Using Thinner Angular Filter under X-Ray Dark-Field Imaging, Japanese Journal of Applied Physics, 45- 28, L740-743, 2006
- 研究分担者 柿沼龍太郎
- 46) Hanai K., Kakinuma R, et al. Computer-simulation technique for low dose computed tomographic screening. J Comput Assist Tomogr. 30 (6): 955-961, 2006
- 47) 柿沼龍太郎、12. マルチスライスCTを用いた肺結節のコンピュータ診断支援、日本胸部臨床、65 (11): S84-S94, 2006
- 48) 五味志穂、柿沼龍太郎、他、胸部CTスクリーナーアンケート調査報告、胸部CT検診、13 (2): 181-184, 2006
- 49) Terauchi T, Kakinuma R, et al. Evaluation of whole body cancer screening using 18F-2-deoxy- 2-fluoro-D-glucose positron emission tomography: a preliminary report. Annals of Nuclear Medicine (in press), 2008
- 50) Kakinuma R, et al. Performance evaluation of

4 measuring methods of ground-glass opacities for predicting the 5-year relapse-free survival of patients with peripheral nonsmall cell lung cancer: a multicenter study. J Comput Assist Tomogr. (in press), 2008

- 51) Kakinuma R. et al. Low-dose helical CT screening for lung cancer using multislice CT: NCC Project, 国立がんセンターがん対策情報センター がん診療画像レファレンスデータベース, 2007
- 52) 花井 構造, 柿沼 龍太郎, 他, 肺がんCT検診認定技師の要件 - 撮影およびスクリーニングにおける minimum requirement -, CT検診 14 (2): 122-128, 2007
- 53) 太田 真由子, 柿沼 龍太郎, 低線量CTによる肺がん検診の現状, Medical Practice, 24 (7): 1276-1277, 2007
- 54) 寺内 隆司, 柿沼 龍太郎, 他, PET検診は是か非か, MOOK肺癌の臨床, 2007-2008, 83-89, 2007
- 55) Yoh K, Kakinuma R. et al. Phase II trial of carboplatin and paclitaxel in non-small cell lung cancer patients previously treated with chemotherapy. Lung Cancer, 58: 73-79, 2007

研究分担者 金子昌弘

- 56) 金子昌弘, 究極の検診とは何か - CTで究極の検診は可能か -, CT検診, 13 (2): 110-112, 2006
- 57) 金子昌弘, 肺がんの診断と治療, 人間ドック, 21 (1), 79-97, 2006
- 58) 金子昌弘, 気管支鏡の歴史, 呼吸と循環, 55 (2号), 137-144, 2007

研究分担者 光富徹哉

- 59) Matsuo K, Mitsudomi T. et al: Risk factors differ for non-small-cell lung cancers with and without EGFR mutation: assessment of smoking and sex by a case-control study in Japanese. Cancer Sci, 98-1, 96-101, 2006
- 60) Kosaka T, Mitsudomi T. et al: Analysis of epidermal growth factor receptor gene mutation in patients with non-small cell lung cancer and acquired resistance to gefitinib. Clin Cancer Res 12:5764-9, 2006
- 61) Yatabe Y, Mitsudomi T. et al: A rapid, sensitive assay to detect EGFR mutation in small biopsy specimens from lung cancer. J Mol Diagn 8:335-41, 2006
- 62) Toyooka S, Mitsudomi T. et al: Mutations of epidermal growth factor receptor an K-ras

genes in adenosquamous carcinoma of the lung. Int J Cancer 118:1588-1590, 2006

- 63) Takeuchi T, Mitsudomi T. et al: Expression profile-defined classification of lung adenocarcinoma shows close relationship with underlying major genetic changes and clinicopathologic behaviors. J Clin Oncol 24:1679-88, 2006
- 64) Mitsudomi T. Kosaka T, Yatabe Y: Biological and clinical implications of EGFR mutations in lung cancer. Int J Clin Oncol 11:190-8, 2006
- 65) Endoh H, Mitsudomi T. et al: PTEN and PIK3CA expression is associated with prolonged survival after gefitinib treatment in EGFR mutated lung cancer patients. J Thorac Oncol 1:629-634, 2006

研究分担者 佐川 元保

- 66) 佐川元保, 中山富雄, 遠藤千顕, 他, 肺癌検診の有効性評価にかかわる現況: エビデンスと論争点, EBMジャーナル, 8: 186-192, 2007
- 67) 佐川元保, 中山富雄, 遠藤千顕, 他, 肺がん検診ガイドライン・エビデンスレポート・レビュー, Minds website, 2007
- 68) 佐川元保, 薄田勝男, 土原一真, 他, 異なる条件下で作成されたVirtual bronchoscopy画像の差異の検討, 胸部外科, 61: 102-108, 2008
- 69) Sagawa M. Endo C, Sato M, et al. Four years experience of the survey on quality control of lung cancer screening system in Japan. Lung Cancer (in press)
- 70) Sagawa M. Aikawa H, Usuda K, et al. Extended sleeve pulmonary resection in a patient with synchronous triple bronchogenic squamous cell carcinoma. Lung Cancer 59: 262-265, 2008
- 71) Usuda K, Sagawa M. Aikawa H, et al. Virtual bronchoscopic navigation is useful in the diagnosis of synchronous pulmonary squamous cell carcinomas. J Bronchol 15: 104-106, 2008.
- 72) Ma G, Ueno M, Sagawa M. et al. Increased reabsorption of alveolar edema fluid in the obese Zucker rat. Tohoku J Exp Med 216: 223-230, 2008.
- 73) 中山富雄, 佐川元保, 他, がん検診ガイドラインガイドブック, 厚生労働省, 2008
- 74) 中山富雄, 佐川元保, 他, 有効性評価に基づく前立腺がん検診ガイドライン, 厚生労働省, 2008
- 75) 佐川元保, 他, 気管支鏡での, がんの特徴的所見は? In: 肺がんケアQ&A, 総合医学社,

pp60-61, 2008

- 76) 佐川元保, 薄田勝男, 相川広一, 他, 低線量CT 検診の現状と展望, 日臨, 66: 219-224, 2008
- 77) 佐川元保, 薄田勝男, 相川広一, 他, 検診制度の変化と早期肺癌検出, Modern Physician 28: 845-848, 2008
- 78) 佐川元保, 薄田勝男, 土原一真, 他, 異なる条件下で作成された Virtual bronchoscopy 画像の差異の検討, 胸部外科, 61: 102-108, 2008
- 79) 江口研二, 佐川元保, 長尾啓一, 他, 肺癌検診 pro と con, 呼吸, 27: 350-359, 2008
- 80) 佐川元保, 検診の「質」: 良質な検診とは? 診療と新薬, 45: 786-803, 2008
- 81) 上田善道, 佐川元保, 島崎都, 東光太郎, 他, 肺癌病理の Up to Date, 金医大誌, 33: 21-30, 2008
- 82) 相川広一, 佐川元保, 薄田勝男, 他, 21世紀の肺癌集学的治療がめざすもの, 胸部外科, 61: 51-54, 2008

#### 研究分担者 青木大輔

- 83) 青木大輔, 齊藤英子, 進 伸幸, 藤井多久磨, 富永英一郎, 「子宮頸がん検診の精度管理」, 日本がん検診・診断学会誌, 14 (2): 137-144, 2007
- 84) 青木大輔, 「子宮がん検診の動向と問題点」, 東京産婦人科医会誌, 40: 58-61, 2008
- 85) 青木大輔, クリニカルレクチャー4) 知っておきたい子宮頸部細胞診の報告様式一ベセスダシステム2001一, 日産婦誌, 60(9): N-178-N-184, 2008

#### 研究分担者 渋谷 大助

- 86) 加藤勝章, 渋谷大助, 「住民検診発見癌からみたH. pylori感染検査とペプシノゲン法による胃癌高危険度群設定の問題点」, 消化器科, 43 (2): 110-115, 2006
- 87) 加藤勝章, 猪俣 芳文, 相田 重光, 島田剛延, 大原 秀一, 下瀬川 徹, 渋谷 大助, 「集検発見癌から見た胃癌スクリーニング法としての尿中Helicobacter pylori抗体検査とペプシノゲン法併用の問題点」, 日本消化器がん検診学会誌, 45 (2): 183-193, 2007
- 88) 島田剛延, 渋谷大助, 「専門施設におけるがん検診」, 最新医学, 62: 48-55, 2007
- 89) 加藤勝章, 渋谷大助, 「Helicobacter pylori 検診の将来をみる」, Helicobacter Research, 11 (6): 52-57, 2007
- 90) 島田剛延, 渋谷大助, 他, 「便潜血検査の感度と要精検率に対する考え方」 臨牀消化器内科, 23 (2): 175-181, 2008
- 91) 相田重光, 渋谷大助, 他, 「経年変化が追え

た集検発見胃癌の1例」日本消化器がん検診学会誌, 46 (4): 494-499, 2008

- 92) 島田剛延, 渋谷大助, 他, 「大腸がん検診で発見された前立腺癌の直腸浸潤例」日本消化器がん検診学会誌, 47 (1): 63-68, 2009

#### 研究分担者 西田 博

- 93) 西田 博, 疫学的手法を用いた大腸がん検診の限界の検討, 消化器科, 47 (6): 597-603, 2008
- 94) 西田 博, 検診のスクリーニング法としての便潜血検査 (1) 便潜血検査を用いた大腸がん検診の現状と今後, 臨牀消化器内科, 23: 159-165, 2008

#### 研究分担者 松田 一夫

- 95) 松田一夫, 対策型検診としての大腸がん検診に求められるもの一地域がん登録との記録照合による大腸がん検診の精度を含めて一 (第38回日本消化器がん検診学会九州地方会, 教育講演II), 日消がん検診誌, 47 (1): 128-130, 2009
- 96) 松田一夫, 野口正人, 田中正樹, 大腸がん検診における受診間隔と予後一逐年検診から隔年検診 (2年毎) に変えるとどうなるか?一, 日消がん検診誌, 47 (2): 240-247, 2009

#### 研究分担者 濱島 ちさと

- 97) 濱島ちさと, II. Principles of Oncology. 新臨床腫瘍学一がん薬物療法専門医のために一 (日本臨床腫瘍学会編集), がん検診, pp. 141-162, 南江堂, 東京, 2006
- 98) 濱島ちさと, 祖父江友孝: 有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドラインについて, 東京都予防医学協会年報2006年版, 35: 192-199, 2006
- 99) 濱島ちさと, わが国における癌検診の現状と問題点 癌種別に見るがん検診の現状と課題「胃癌検診」, クリニカル プラクティス, 25 (4): 265-269, 2006
- 100) 濱島ちさと, がん検診におけるインフォームド・コンセントの改善一国立がんセンターがん予防検診・研究センターの経験を踏まえて一, 日本がん検診・診断学会誌, 13 (2): 183-192, 2006
- 101) Hamashima C, Sobue T, Muramatsu Y, Saito H, Moriyama N, Kakizoe T: Comparison of observed and expected numbers of detected cancers in the research center for cancer, Jpn J Clin Oncol. 36 (5): 301-308, 2006
- 102) 濱島ちさと, 佐々木清寿, 高濃度バリウムによる胃X線検査に関する研究の批判的吟味, 日本がん検診・診断学会誌, 13 (2): 123-134, 2006
- 103) 濱島ちさと, がん検診の現状と展望, 総合臨床, 55 (5): 1416-1422, 2006
- 104) 深尾彰, 濱島ちさと, 渋谷大助, 山崎秀男井上

- 和彦、斎藤博、祖父江友孝(平成17年度厚生労働省がん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班胃がん検診ガイドライン作成委員会):有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン(普及版)、癌と科学療法、33(8):1183-1197、2006
- 105) 中山富雄、佐川元保、遠藤千顕、濱島ちさと、斎藤博、祖父江友孝、有効性評価に基づく肺がん検診ガイドラインの作成、CT検診、13(3):225-230、2006
- 106) 斎藤博、濱島ちさと、癌検診のエビデンス、大腸がん検診、EBMジャーナル、8(2)42-49、2007
- 107) Maeda T, Tateishi U, Terauchi T, Hamashima C, Moriyama N, Arai Y, Kim EE, Sugimura K: Unsuspected bone and soft tissue lesions identified at cancer screening using positron emission tomography, Jpn J Clin Oncol. 37(3):207-215 (2007.3)
- 108) 濱島ちさと、CPGレビュー:胃がん検診ガイドライン 胃がん検診ガイドライン・レビュー、Minds医療情報サービス、2007
- 109) 濱島ちさと、胃がん検診:最新のエビデンスについて、Minds医療情報サービス、2007
- 110) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan, Cancer Science. 98(8):1241-1247. 2007
- 111) 佐川元保、中山富雄、遠藤千顕、濱島ちさと、斎藤博、祖父江友孝、肺がん検診ガイドライン・エビデンスレポート・レビュー、Minds医療情報サービス、2007
- 112) Shoda H, Kakugawa Y, Saito D, Kozu T, Terauchi T, Daisaki H, Hamashima C, Muramatsu Y, Moriyama N, Saito H. Evaluation of 18F-2-deoxy-2-fluoro-glucose positron emission tomography for gastric cancer screening in asymptomatic individuals undergoing endoscopy, Brt J Cancer. 97:1493-1498. 2007
- 113) 濱島ちさと、Report:GINと診療ガイドラインの今後の課題、あいみつく、28(4):20-22、2007
- 114) 濱島ちさと、胃がん検診と死亡率減少効果、臨床消化器内科、23(3):327-334、2008
- 115) Hamashima C, Saito H, Nakayama T, Nakayama T, Sobue T. The Standardized Development Method of the Japanese Guidelines for Cancer Screening, Jpn J of Clin Oncol 2008 (in press)
- 116) Hamashima C, Shibuya D, Yamazaki H, Inoue K, Fukao A, Saito H, Sobue T. The Japanese Guidelines for Gastric Cancer Screening, Jpn J of Clin Oncol 2008 (in press)
- 117) Hamashima C, Shibuya D, Yamazaki H, Inoue K, Fukao A, Saito H, Sobue T: The Japanese guidelines for gastric cancer screening, Jpn J Clin Oncol, 38(4):259-267 (2008.4)
- 118) Hamashima C, Saito H, Nakayama T, Nakayama T, Sobue T: The Standardized development method of the Japanese guidelines for cancer screening, Jpn J Clin Oncol. 38(4):288-295 (2008.4)
- 119) Terauchi T, Murano T, Daisaki H, Kanou D, Shoda H, Kakinuma R, Hamashima C, Moriyama N, Kakizoe T.: Evaluation of whole-body cancer screening using 18F-2-deoxy-2-fluoro-D-glucose positron emission tomography: a preliminary report, Ann Nucl Med. 22(5):379-385 (2008.6)
- 120) 濱島ちさと、がん診断と治療:がん検診の現状と課題、診療研究、437:5-10、2008
- 121) 濱島ちさと、肺がん検診:最新のエビデンス、Minds医療情報サービス、2008
- 122) 濱島ちさと、がん検診、がん分子標的治療、6(3):42-47、2008
- 123) 濱島ちさと、がん検診の重要性と限界、メディチーナ、45(8):1402-1404、2008、
- 124) 濱島ちさと、正しい情報に基づくがん検診の受け方、診療と新薬、45(11):55-73、2008

## 2. 学会発表

研究代表者 斎藤 博

- 1) Hiroshi Saito: Which FOBT is Suitable for an Asian population?. Symposium on Cancer Prevention & Early Detection. 21-24 April 2006, Beijing, China
- 2) 斎藤博、大腸がん検診ガイドライン、第45回日本消化器がん検診学会、2006.6、名古屋
- 3) 斎藤博、胃がん・大腸がん検診ガイドラインについて、第35回日本消化器がん検診学会近畿地方会、2006.7、大津
- 4) 斎藤博、検診によるがん死亡率減少の戦略<シンポジウム:がん予防を実施するために>第65回日本癌学会学術総会、2006.9、横浜
- 5) 斎藤博、消化器がん検診の戦略-検診実施マネジメントを中心に、第14回日本消化器関連学会(DDW-JAPAN)、2006.10、札幌
- 6) 斎藤博、がん検診実施マネジメント総論<特別研修プログラム:がん検診アセスメント・実施マネジメントの考え方-がん対策基本法成立後の新たな展開->、第65回日本公衆衛生学会総会、2006.10、富山
- 7) 斎藤博、消化器がん検診ガイドラインと精度管理、第37回日本消化器がん検診学会中国四国地方会、2006.11、広島

- 8) 斎藤博, 大腸がんは早期発見がもっとも効果的ながんです, 第44回日本消化器病学会関東支部市民公開講座, 2006. 11, 横浜
- 9) Saito H. Average risk screening for colorectal cancer in Japan, 3rd International Asian Conference of Cancer Screening, 17-18, November 2006, Singapore
- 10) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan. Asia Pacific EBM Network Conference 2006. 2006. 12
- 11) Hamashima C, Saito H. Willingness to pay for PET cancer screening. 4<sup>th</sup> Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2007.
- 12) Hamashima C, Saito H. Performance assessment of colorectal cancer screening in Japan. 4<sup>th</sup> Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2007
- 13) Hamashima C, Saito H. The relationship between cost and recommendations of cancer care guidelines in Japan. International Health Economics Association 6<sup>th</sup> World Congress. 2007
- 14) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan. 4<sup>th</sup> Annual G-I-N Conference. 2007
- 15) Saito H. An estimation of the magnitude of self-selection bias in a case-control study evaluating colorectal cancer screening with an immunochemical fecal occult blood test. 4<sup>th</sup> International Asian Conference of Cancer Screening. 2007
- 16) Saito H. Current status of colorectal cancer screening in Japan. OMED-sponsored Research Workshop Screening for Colorectal Cancer in the Asia-Pacific region. 2007
- 17) Saito H, Kakugawa Y. Global view of data on neoplastic superficial colorectal lesions in Japan. International Workshop on Non-polypoid mucosal colorectal neoplasia (NPMN) in Kyoto. 2008
- 18) 斎藤博, 大腸がん検診の最前線-基調講演, 第15回日本がん検診・診断学会, シンポジウム, 2007. 7. 6, 京都
- 19) 斎藤博, わが国における前立腺がん検診システムの多様性とその評価に関するコメント, 第15回日本がん検診・診断学会, イブニングセミナーシンポジウム, 2007. 7, 京都
- 20) 斎藤博, がん検診のマネジメント, 第15回日本がん検診・診断学会学術集会, 特別講演, 2007. 7, 京都
- 21) 斎藤博, 大腸がん検診の現状と課題, 第14回日本がん予防学会シンポジウム, 2007. 7, 東京
- 22) 斎藤博, 大腸がん検診の現状と問題点, JDDW2007KOBE-第45回日本消化器がん検診学会大会, 特別企画消化器がんスクリーニング関連ミニレクチャー, 2007. 10, 神戸
- 23) 青木綾子, 濱島ちさと, 斎藤博, 日本対がん協会支部における精度管理実施状況に関する検討, JDDW2007KOBE-第45回日本消化器がん検診学会大会, ポスターセッション, 2007. 10, 神戸
- 24) 斎藤博, 大腸がん検診の現状と問題点, JDDW2007KOBE-第45回日本消化器がん検診学会大会, 特別企画, 2007. 10, 神戸
- 25) 斎藤博, 国家戦略としてのがん検診, 第17回日本乳癌検診学会総会シンポジウム, 2008. 1
- 26) 斎藤博, 有効性評価に基づく胃がん検診ガイドラインについて, 教育講演, 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方大会代40回放射線部会総会, 2008. 2, 大宮
- 27) 斎藤博, 大腸がん検診における精検受診・未把握・見受診の定義に関する検討, 第47回日本消化器がん検診学会, 附置研究会, 2008. 5, 福岡
- 28) 斎藤博, がん検診における精検結果把握の工夫, 第16回日本がん検診・診断学会総会, 基調講演, 2008. 9, 東京
- 29) 斎藤博, がん検診の精度管理, JDDW2008-第46回日本消化器がん検診学会大会, 特別企画, 2008. 10, 東京
- 30) 斎藤博, がん検診の有効性評価と精度管理-肺がん検診を中心に-, 第24回肺癌集検セミナー, 特別講演, 2008. 11. 15, 福岡
- 31) 斎藤博, 第26回日本大腸検査学会総会, 教育講演, 2008. 11, 東京
- 32) Hiroshi Saito: The 5<sup>th</sup> International Asian Conference of Cancer Screening, Colorectal and Prostate Cancer Screening in Japan. 2008. September. Khon Kaen
- 研究分担者 江口研二
- 33) N Seki, K. Eguchi, M. Kaneko, et al. The adenocarcinoma-specific stage shift: Closely-repeated low-dose helical CT screening in a high-risk cohort for 10 years. (ASCO 2006 Oral presentation abstract 1006) JCO 24, 50s 2006
- 研究分担者 児玉哲郎
- 34) 近藤哲郎, 児玉哲郎, 他, 胸部CT検診複数回受



診肺癌発見例の検討、第47回日本肺癌学会総会、2006. 12. 14、京都

- 35) Mori K, Kodama T, et al. Use of contrast CT for three dimensional diagnosis of small pulmonary nodules: differentiate on between benign and malignant nodules. 92th Radiological Society of North America. 2006, 11 (Supplement to Radiology, 694, 2006. Chicago)

研究分担者 池田徳彦

- 36) Ikeda N. Diagnostic and Interventional Bronchoscopy (Annual Asian Pacific Conference Perspective in Lung Cancer) 2006 上海
- 37) Ikeda N. Screening for Lung Cancer in Japan (European Congress for Surgical Endoscopy) 2006 Verona
- 38) Ikeda N. Endoscopic Diagnosis of Lung Cancer, Japanese Experience (European Congress for Surgical Endoscopy) 2006 Verona
- 39) Ikeda N. Optical Coherence Tomography (European Congress for Surgical Endoscopy) 2006 Verona
- 40) 池田徳彦、自家蛍光気管支鏡の新たな進歩、第29回日本呼吸器内視鏡学会、2006、つくば
- 41) 池田徳彦、肺の小結節病変の臨床と形態学の接点、第47回日本臨床細胞学会総会、2006、横浜
- 42) 池田徳彦、肺癌の胸腔内再発に対する外科治療の検討、第47回日本肺癌学会総会、2006、京都

研究分担者 遠藤登喜子

- 43) 遠藤登喜子、他、デジタルマンモグラフィのモニタ表示能の検討、第14回日本肺癌学会学術総会、2006. 7. 7-8、金沢
- 44) 古妻嘉一、遠藤登喜子、他、マンモグラフィ読影講習会の精度管理と教育効果向上への検討、第14回日本肺癌学会学術総会、2006. 7. 7-8、金沢
- 45) 池戸祐司、遠藤登喜子、他、全乳房超音波画像にける腫瘍検出支援システムの開発、第16回コンピュータ支援画像診断学会大会、2006. 10. 27-29、東京
- 46) 高田悦雄、遠藤登喜子、他、乳房超音波集検システムについて、第16回日本乳房検診学会総会、2006. 10. 17-18、仙台
- 47) 池戸祐司、遠藤登喜子、他、超音波画像による全乳房ビューアの開発、第16回日本乳房検診学会総会、2006. 10. 17-18、仙台
- 48) Hara T, Endo T, et al. Iwase, Automated detection method for architectural distortions with spiculation based on distribution assessment of mammary gland on

mammograms, 8th International Workshop of Digital Mammography, 2006, 2006-6. 18-21, Manchester, UK

- 49) Fukuoka D, Endo T, et al. Development of Breast Ultrasound CAD System for Screening, 8th International Workshop of Digital Mammography, 2006, 2006-6. 18-21, Manchester, UK
- 50) Ando M, Endo T, et al. First attempt at 3D V-Ray Visualization of DCIS (Ductal Carcinoma in Situ) Due to Refraction Contrast - In Good Relation to Pathological View, 8th International Workshop of Digital Mammography, 2006, 2006-6. 18-21, Manchester, UK
- 51) 遠藤登喜子、他、乳房組織の音速に関する検討(1)、第16回日本乳房画像研究会、2007. 2. 10-11、東京
- 52) 服部照香、遠藤登喜子、他、乳房超音波精度管理用ファントムの適正温度条件の検討、第16回日本乳房画像研究会、2007. 2. 10-11、東京
- 53) 池戸祐司、遠藤登喜子、他、超音波診断装置の音速設定と画質の関係についての検討、第16回日本乳房画像研究会、2007. 2. 10-11、東京
- 54) 池戸祐司、遠藤登喜子、他、乳がん集検用超音波における全乳房読影システムの開発、第16回日本乳房画像研究会、2007. 2. 10-11、東京
- 55) 安藤正海、遠藤登喜子、他、屈折コントラスト利用のマンモグラフィ開発への挑戦、第16回日本乳房画像研究会、2007. 2. 10-11、東京

研究分担者 柿沼龍太郎

- 56) 柿沼龍太郎、＜シンポジウムI-3 小型肺がんの診断と治療の展開＞腫瘍倍加時間から考察した経過観察について、第14回日本CT検診学会学術集会、2007. 2、大阪
- 57) 柿沼龍太郎、他、一般演題19 検診CT画像上の肺結節の存在診断：5mm再構成画像での医師と診療放射線技師の比較、第14回日本CT検診学会学術集会、2007. 2、大阪
- 58) 柿沼龍太郎 肺がんCT検診認定制度におけるe-learningの可能性、日本CT検診学会 2008. 2. 16

研究分担者 金子昌弘

- 59) 金子昌弘、小型GGO病変の所見別に見た経過観察間隔と期間に関する提案、日本CT検診学会総会、2007年2月、大阪
- 60) 金子昌弘、CT検診発見肺がん症例の二次がんおよび夫婦間発がんの検討、日本がん検診・診断学会総会、2006. 7、宮崎
- 61) 金子昌弘、気管支鏡の過去・現在・未来、日本呼吸器内視鏡学会総会、2006. 6、つくば

おきたい子宮頸部細胞診の報告様式一ベセス  
ダシステム2001一、第60回日本産科婦人科学会  
学術講演会、2008. 4、横浜

研究分担者 村松幸男

- 62) 黒木聖子、村松幸男、国立がんセンターがん予  
防・検診研究センターにおけるMRIによる女  
性骨盤検診の初期性成績、第65回日医放、  
2006. 4、横浜

研究分担者 佐川 元保

- 63) 佐川元保、特別講演、肺癌集検の評価と未来、  
第46回日本臨床細胞学会秋季大会、2007. 11  
64) 中山富雄、佐川元保、他、CT検診セミナー：肺  
癌検診ガイドラインにおけるCT検診の評価と  
現状での考え方、第15回日本がん検診・診断学  
会、2007. 7  
65) 佐川元保、他、異なる条件下で作成された  
Virtual Bronchoscopy画像の差異の検討、第30  
回日本呼吸器内視鏡学会総会、2007. 6、東京  
66) 佐川元保、CT検診の現状と課題、第47回日本  
呼吸器学会総会、2007. 5  
67) 佐川元保、他、原発性肺癌完全切除術後補助療  
法としてのドセタキセル+TS-1のPhase I  
Study、第48回日本肺癌学会総会、2007. 11  
68) 薄田勝男、佐川元保、他、肺pleomorphic  
carcinomaの臨床病理学的特性、第48回日本肺  
癌学会総会、2007. 11  
69) 薄田勝男、佐川元保、他、Virtual Bronchoscopy  
の使用により2病変の確診を得た多発肺癌(扁  
平上皮癌)の1例、第30回日本呼吸器内視鏡学  
会総会、2007. 6  
70) 佐川元保、他、超早期肺癌に対する根治的楔状  
切除の適応：PET、CT、術中病理診断の組み合せ  
による多施設臨床試験に向けて、第24回日本肺  
癌学会総会、2007. 5  
71) 相川広一、佐川元保、他、当施設における気道  
インターベンション治療の検討、第24回日本肺  
癌学会総会、2007. 5  
72) 町田雄一郎、佐川元保、他、術前診断で肺癌を  
疑われ、開胸検査で非肺癌と診断された症例の  
検討、第24回日本肺癌学会総会、2007. 5  
73) 佐川元保、他、肺癌集検精度管理指標を集計す  
ることは実際の指標の数値に影響するのか？  
第49回日本肺癌学会総会、2008. 11、北九州  
74) 相川広一、佐川元保、他、多発 GGO 病変に対  
する CT ガイド下気管支鏡を用いたバリウムマ  
ーキングの経験、第31回日本呼吸器内視鏡学  
会総会、2008. 6、大阪  
75) 田中 良、佐川元保、他、仮想気管支鏡、超音  
波気管支鏡補助下に確定診断し得た小型末梢  
肺癌の1例、第31回日本呼吸器内視鏡学会総会、  
2008. 6、大阪

研究分担者 青木大輔

- 76) 青木大輔、クリニカルレクチャー4) 知って

研究分担者 渋谷 大助

- 77) 渋谷 大助、胃集検発見癌から見た胃癌スクリ  
ーニング法としてのHelicobacter pylori感染  
検査とペプシノゲン法併用法における偽陰性  
の問題点、第45回日本消化器がん検診学会大会、  
2007. 10. 20  
78) 加藤勝章、渋谷大助、当センターにおける胃集  
検デジタルラジオグラフィ読影システムの  
構築と問題点、第47回日本消化器がん検診学会  
総会、2008. 5、福岡  
79) 島田剛延、渋谷大助、当施設における精検結  
果把握の現状、第47回日本消化器がん検診学会  
総会、2008. 5、福岡  
80) 加藤勝章、渋谷大助、胃癌スクリーニング法と  
してのHelicobacter pylori 感染検査とペプシ  
ノゲン法における偽陰性の問題、第47回日本消  
化器がん検診学会総会、2008. 5、福岡  
81) 渋谷大助、当施設における精検結果把握の問題  
点、第16回日本がん検診・診断学会、2008. 10  
82) 渋谷大助、PG法・胃X線法併用検診の精度管理、  
第46回日本消化器がん検診学会大会、2008. 10、  
東京  
83) 猪股芳文、渋谷大助、胃がん内視鏡検診におけ  
る精度管理の問題点および対策についての検  
討、第46回日本消化器がん検診学会大会、  
2008. 10、東京

研究分担者 西田 博

- 84) 西田 博、大腸がん検診の精度管理、DDW 2008  
第46回日本消化器がん検診学会大会、特別企画、  
2008. 10、東京  
85) 西田 博、大腸がん検診 ～そのシステムとス  
トラテジー～、第37回日本消化器がん検診学会  
近畿地方会特別教育講演<がん検診  
up-to-dateセミナー>、2008. 7、和歌山

研究分担者 小坂 健

- 86) 相田潤、河原 智江、坪野吉孝、小坂健、全国  
の自治体(市)のがん検診への取り組みに関する  
研究、日本公衆衛生学会、2007

研究分担者 松田 一夫

- 87) 松田 一夫、便潜血検査による大腸がん検診の  
現状と問題点、第15回日本がん検診・診断学会  
総会シンポジウム、2007. 7  
88) 松田一夫、田中正樹、大腸がん検診における適  
正な要精検率一受診率50%達成のために一、第  
38回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会、  
2008. 11

研究分担者 濱島 ちさと

- 89) Hamashima C. Cancer screening program  
and Economic evaluation. Gastric

- Adenocarcinoma International Symposium.  
2006. 05. Porto
- 90) 佐野洋史、濱島ちさと、祖父江友孝、斎藤博、大腸がん検診の精度管理に関する考察、第45回日本消化器がん検診学会総会 2006. 6、名古屋
- 91) Hamashima C. Knowledge of, and attitudes towards, cancer screening among the general population and healthcare professionals. 3rd Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2006. 7. Adhered
- 92) 濱島ちさと、教育講演：大腸がん検診の有効性評価と経済評価、第36回日本消化器がん検診学会九州地方会、2006. 07、大分
- 93) 濱島ちさと、祖父江友孝、村松幸男、斎藤博、森山紀之、垣添忠生、国立がんセンターがん予防・検診研究センターにおける発見がん予測値の比較検討、第65回日本癌学会学術総会、2006. 9、東京
- 94) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Japan-specific cancer screening guidelines. Guidelines on the Danube. GIN regional Symposium 2006. 10
- 95) 濱島ちさと、特別研修プログラム1、5. がん検診アセスメント、第65回日本公衆衛生学会、2006. 10、富山
- 96) 濱島ちさと、特別講演：有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドラインについて、第13回大阪がん検診治療研究会、2006. 12、大阪
- 97) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan. Asia Pacific EBM Network Conference 2006. 2006. 12. Hong Kong
- 98) Hamashima C, Saito H. Willingness to pay for PET cancer screening. 4th Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2007. 06
- 99) Hamashima C, Saito H. Performance assessment of colorectal cancer screening in Japan. 4th Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2007. 06
- 100) 濱島ちさと、フォーラム 胃がん検診ガイドラインをめぐって：有効性評価と今後の課題；胃がん検診ガイドラインの作成と今後の課題、第46回日本消化器がん検診学会総会、2007. 6
- 101) Hamashima C, Saito H. The relationship between cost and recommendations of cancer care guidelines in Japan. International Health Economics Association 6th World Congress. 2007. 07
- 102) Hamashima C, Saito H, Sobue T. Awareness of and adherence to cancer screening guidelines among health professionals in Japan. 4th Annual G-I-N Conference. 2007. 8
- 103) Hamashima C. Cancer screening guidelines and their implementation in Japan. 4th International Asian Conference of Cancer Screening. 2007. 10
- 104) 濱島ちさと、特別企画「消化器がんスクリーニングup to date」がん検診における評価の基本理念、第45回日本消化器がん検診学会大会（第15回日本消化器関連学会週間 JDDW 2007 Kobe）、2007. 10、神戸
- 105) 青木綾子、江崎優、濱島ちさと、斎藤博、日本対がん協会支部における精度管理実施状況に関する検討、第45回日本消化器がん検診学会大会、2007. 10、神戸
- 106) Hamashima C. Performance Assessment and geographical difference in cancer screening programs. Asia Pacific EBM Network Conference. 2007. 11
- 107) Hamashima C, Saito H. Performance assessment and geographical difference in cancer screening programs. International Cancer Screening Network 20th Biannual Meeting. 2008. 06
- 108) Hamashima C, Saito H. Age Distribution of Participants in colorectal cancer screening programs in Japan. 5th Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2008. 07
- 109) Hamashima C, Kishi T, Saito H. Comparison of Knowledge and Attitudes between different target groups for cancer screening. 5th Annual Meeting Health Technology Assessment International. 2008. 07
- 110) Hamashima C. Cancer screening Programs in Japan. 10th International Congress of Behavioral Medicine. 2008. 08
- 111) Hamashima C. Cancer screening programs for women in Japan. 5th International Asian Conference on Cancer Screening. 2008. 9
- 112) Hamashima C. The use of local evidence for guideline development: The example of the Japanese guidelines for cancer screening. 5th International G-I-N Conference 2008. 2008. 10
- 113) Hoshi K, Hamashima C, Isono T, Izumi M, Ogata H. Cancer screening guideline information in local government office web sites in Japan. 5th International G-I-N Conference 2008. 2008. 10
- 114) Hamashima C, Nakayama T, Sagawa M, Saito H, Sobue T. Comparison of guidelines and

evidence reports for prostate cancer screening. 67<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2008.10

- 115) 濱島ちさと、教育講演「がん検診と産業医活動：前立腺癌」、日本産業衛生学会関東地方会、第241回例会、2008.5
- 116) 濱島ちさと：基調講演「内視鏡による胃がん検診を対策型検診として導入するためには」、第75回日本消化器内視鏡学会総会 第2回胃内視鏡検診の有効性評価に関する研究会、2008.5

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他